

「学問と社会のあり方研究会10」講演要旨

Dr. ナダレンジャーによる無関心層のための防災教育

納口 恭明（のうぐち やすあき）

独立行政法人 防災科学技術研究所

大災害の直後、大きく盛り上がる防災に対する個々人の関心は、通常、あっという間に薄れてしまうのが普通である。もちろん、決して、個々人としては防災に関心がないわけではない。しかし、趣味・娯楽・恋愛・仕事・家庭・グルメ・・・など、ライバルが多すぎて、すべてを抑えて防災のために自分の貴重な時間を裂くかは疑問である。しかも、一生のうちに生死にかかわるほどの大災害に遭遇する人は稀である。したがって「今、やらなくても・・・」と考えて、どんどん後回しになっていく。防災は常に個人優先順位上位にランクされていても、決してトップに出ることはない。防災の日に実施される一般市民相手の防災訓練やその他、災害に関する各種イベントはメディアで伝えられるほどには盛り上がりはしていない。それは参加者の多くがご高齢の方が、動員をかけられて仕方なく参加している人ばかりであるという現実には他ならない。

では、どうすればいいのか。それは、単純である。防災が趣味であり、娯楽であり、恋愛？であり、仕事であり、家庭であり、グルメになればいいのである。たとえば、安全を確保された人にとって、大災害を引き起こすような自然現象を観察したり、場合によって体験することは絶叫マシンにも匹敵する好奇心の対象になる。また、サバイバルや体力強化をとりいれたバーチャルではない防災訓練は無理をせずとも趣味の領域と重なる。数万人が参加して行われる東京マラソンはちょっとだけ工夫すれば、まさしくそのまま防災訓練と考えていいのではなかろうか。

今回の講演では、わざわざ、見苦しく変装して行うDr. ナダレンジャーの実演を通して、無関心層を対象とする防災教育の心・技・体の一端を披露できればと思っている。